



2019年10月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年9月6日

上場会社名 株式会社 トップカルチャー

上場取引所 東

コード番号 7640 URL <http://www.topculture.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 秀雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 遠海 武則

TEL 025-232-0008

四半期報告書提出予定日 2019年9月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年10月期第3四半期の連結業績(2018年11月1日～2019年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年10月期第3四半期	23,905	1.0	227		220		47	
2018年10月期第3四半期	24,143	1.9	874		922		1,401	

(注) 包括利益 2019年10月期第3四半期 38百万円 (%) 2018年10月期第3四半期 1,402百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年10月期第3四半期	3.96	3.95
2018年10月期第3四半期	115.94	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年10月期第3四半期	21,822	3,175	14.4	260.01
2018年10月期	24,387	3,136	12.7	256.88

(参考) 自己資本 2019年10月期第3四半期 3,142百万円 2018年10月期 3,104百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年10月期		0.00		0.00	0.00
2019年10月期		0.00			
2019年10月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年10月期の連結業績予想(2018年11月1日～2019年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,272	0.0	590		532		328		27.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年10月期3Q	12,688,000 株	2018年10月期	12,688,000 株
期末自己株式数	2019年10月期3Q	603,482 株	2018年10月期	603,482 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年10月期3Q	12,084,518 株	2018年10月期3Q	12,084,518 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想の将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結損益計算書関係)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
4. 補足情報	11
(1) 生産、受注及び販売の状況	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな回復基調が継続しているものの、米中の貿易摩擦による世界経済の減速など、先行きについては、依然として不透明な状況が続いております。

小売業界におきましては、消費税引き上げを控え消費者マインドは慎重化しており、個人消費の低迷は継続しております。また、人件費の高騰や物流コストの上昇、多様化する消費者のライフスタイルに対応するため、業態の垣根を越えた出店攻勢や販売競争が発生し、小売業界における経営環境はますます厳しいものになっております。

こうした状況の中、当社グループは2018年11月に蔦屋書店小出店（新潟県魚沼市）を113坪増床し、外装内装ともに大幅な改装を行いました。また、2019年4月から成城石井コーナーの展開をスタートし、食品を中心として販売品目を拡大いたしました。その他に、楽天株式会社と連携し、テナントとして楽天モバイルを誘致し、小出店を含む24店舗にて運営を開始しております。

このように、当社グループでは、大型複合店舗の広い売場に、書籍、映画、音楽、ゲームといった「日常的エンターテインメント」を集約し、さらにBook&Cafeスタイルの導入や、特撰雑貨・文具のみならず、食品等の販売品目の拡大・充実、そして携帯ショップやネイルサロン、美容室、コンビニ、アウトドアショップなどの新たなテナントの誘致により、多様なライフスタイルに対応し、店舗へご来店いただくことの価値をさらに高めてまいりました。

一方で、店舗の運営力・収益力の強化対策の一環として、レジ総台数の見直し及びセルフレジの導入を推進いたしました。2019年1月時点で、店舗設置レジ台数に占めるセルフレジの比率は10%でしたが、2019年7月末現在では45%となっております。今後もスタッフの業務効率の改善等により、店舗運営の抜本的な見直しを行ってまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高23,905百万円（前年同四半期1.0%減）となり、営業利益は、227百万円（前年同四半期は営業損失874百万円）、経常利益220百万円（前年同四半期は経常損失922百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益47百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,401百万円）となりました。

売上・利益の増減要因

売上面につきましては、当社グループの主軸である蔦屋書店事業において、取扱商品の拡大が好評の特撰雑貨・文具は前年同期比107.7%（既存店104.4%）、活発なテナント誘致により賃貸不動産収入は前年同期比156.2%（既存店132.5%）と実績を伸ばした一方、東京上野店の閉店などに伴う店舗数の減少も影響し、書籍、レンタル、CD・DVDの販売は前年水準に届きませんでした。その結果、蔦屋書店事業全体の売上高前年同期比は99.4%（既存店95.9%）となりました。

利益面につきましては、セルフレジの導入の強化や、店舗照明のLED化を推進した結果、既存店の販管費の削減に奏功しました。加えて、売上好調な特撰雑貨・文具の粗利改善を行った結果、営業利益は227百万円（前年同四半期は営業損失874百万円）、経常利益は220百万円（前年同四半期は経常損失922百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は47百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,401百万円）となりました。

セグメントの状況は、次のとおりであります。なお、各セグメントの業績値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

① 蔦屋書店事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高23,423百万円（前年同期比99.4%）、セグメント利益は191百万円（前年同四半期はセグメント損失911百万円）となりました。

主力商品の売上高前年同期比は、書籍99.4%（既存店97.6%）、特撰雑貨・文具107.7%（既存店104.4%）、レンタル91.8%（既存店86.2%）、販売用CD 91.5%（既存店88.1%）、ゲーム・リサイクル92.0%（既存店81.3%）、販売用DVD 77.9%（既存店74.7%）、賃貸不動産収入156.2%（既存店132.5%）となりました。

② その他

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高493百万円（前年同期比84.4%）、セグメント損益は28百万円の損失となりました。（前年同四半期は20百万円の損失）

中古買取販売事業は、売上高前年同期比72.5%、スポーツ関連事業等は、売上高前年同期比97.1%となり、いずれの事業も前年の水準に達しませんでした。

(2) 財政状態に関する説明

総資産につきましては、前連結会計年度末比2,565百万円減少し、21,822百万円となりました。これは主に現金及び預金が2,764百万円減少したことにより、流動資産が2,767百万円減少した一方で、投資有価証券が490百万円増加し、建物が100百万円、保証金が142百万円、それぞれ減少したことにより、固定資産が201百万円増加したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末比2,604百万円減少し、18,646百万円となりました。これは主に1年内返済借入金を含む長期借入金が1,624百万円、短期借入金が300百万円、買掛金が657百万円、それぞれ減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末比38百万円増加し、3,175百万円となりました。これは主に、利益剰余金が47百万円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今期においては、引き続き特撰雑貨・文具をはじめとした各商材の品揃えの強化や粗利改善、テナントの積極的な誘致による賃貸不動産収入の拡大、セルフレジの運用強化による販管費の削減などを更に推進してまいります。

以上を踏まえ、2019年10月期の連結業績予想及びに配当予想につきましては、2019年5月29日に公表いたしました「2019年10月期第2四半期（累計）及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,447,514	682,752
売掛金	280,559	293,299
商品	9,106,109	9,111,463
前払費用	337,511	324,365
未収入金	220,221	213,306
その他	25,221	24,608
貸倒引当金	△404	△404
流動資産合計	13,416,733	10,649,390
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,179,925	2,059,443
土地	1,423,759	1,423,759
リース資産(純額)	3,057,834	3,127,019
その他(純額)	318,131	279,517
有形固定資産合計	6,979,651	6,889,740
無形固定資産		
その他	56,076	50,749
無形固定資産合計	56,076	50,749
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,433,690	3,274,720
その他	501,422	957,442
投資その他の資産合計	3,935,112	4,232,162
固定資産合計	10,970,840	11,172,652
資産合計	24,387,573	21,822,043

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,303,600	2,646,583
短期借入金	3,800,000	3,500,000
1年内返済予定の長期借入金	2,341,430	2,035,803
リース債務	524,611	487,448
未払法人税等	63,253	56,331
賞与引当金	60,000	24,000
未払金	540,890	450,385
その他	254,836	320,223
流動負債合計	10,888,622	9,520,775
固定負債		
長期借入金	5,445,975	4,126,863
リース債務	4,021,972	4,045,089
資産除去債務	528,058	563,293
退職給付に係る負債	73,673	68,618
役員退職慰労引当金	62,941	62,941
長期未払金	55,106	53,186
長期預り敷金保証金	172,767	205,317
その他	1,767	741
固定負債合計	10,362,260	9,126,050
負債合計	21,250,883	18,646,825
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,007,370	2,007,370
資本剰余金	2,303,598	2,303,141
利益剰余金	△935,201	△887,355
自己株式	△270,028	△270,028
株主資本合計	3,105,737	3,153,126
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,484	△10,993
その他の包括利益累計額合計	△1,484	△10,993
新株予約権	8,249	8,249
非支配株主持分	24,186	24,834
純資産合計	3,136,690	3,175,217
負債純資産合計	24,387,573	21,822,043

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年11月1日 至2018年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年7月31日)
売上高	24,143,780	23,905,393
売上原価	17,352,818	16,385,177
売上総利益	6,790,962	7,520,215
販売費及び一般管理費	7,665,826	7,293,135
営業利益又は営業損失(△)	△874,864	227,080
営業外収益		
受取利息	15,033	13,507
協賛金収入	22,105	23,821
固定資産売却益	—	20,000
原子力立地給付金	17,187	11,700
その他	15,290	25,525
営業外収益合計	69,616	94,554
営業外費用		
支払利息	116,910	101,395
営業外費用合計	116,910	101,395
経常利益又は経常損失(△)	△922,157	220,239
特別損失		
減損損失	39,918	145,281
特別損失合計	39,918	145,281
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△962,076	74,957
法人税、住民税及び事業税	23,699	26,920
法人税等調整額	415,620	—
法人税等合計	439,320	26,920
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,401,396	48,036
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△284	191
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,401,112	47,845

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,401,396	48,036
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,437	△9,509
その他の包括利益合計	△1,437	△9,509
四半期包括利益	△1,402,833	38,527
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,402,549	38,336
非支配株主に係る四半期包括利益	△284	191

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 減損損失

前第3四半期連結累計期間(自 2017年11月1日 至 2018年7月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所
店舗	建物及び構築物 リース資産 その他	長野県上田市 仙台市泉区 東京都府中市 東京都八王子市

当社グループは、主として店舗を基本単位として資産のグルーピングを行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、収益性が著しく低下した以下の資産について、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失39,918千円として特別損失に計上いたしました。

減損損失の内訳は、建物及び構築物6,077千円、リース資産33,310千円、その他530千円であります。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.8%で割り引いて算定しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所
店舗	建物及び構築物 リース資産 その他	埼玉県東松山市 神奈川県大和市 新潟市江南区 神奈川県横浜市 群馬県伊勢崎市 埼玉県比企郡川島町 東京都稲城市 東京都台東区 東京都北区

当社グループは、主として店舗を基本単位として資産のグルーピングを行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、145,281千円の減損損失を特別損失として計上いたしました。これは主に、退去時に必要とされる原状回復費用の新たな情報の入手に伴い資産除去債務を計上したこと、及び追加投資の実施により、帳簿価額が将来キャッシュ・フローを上回る見込となり、帳簿価額を回収可能価額まで減額したことによるものであります。

減損損失の内訳は、建物及び構築物97,353千円、リース資産46,661千円、その他1,267千円であります。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.8%で割り引いて算定しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年11月1日 至 2018年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	蔦屋書店事業				
売上高					
外部顧客への売上高	23,567,788	575,991	24,143,780	—	24,143,780
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	8,869	8,869	△8,869	—
計	23,567,788	584,861	24,152,649	△8,869	24,143,780
セグメント損失(△)	△911,289	△20,319	△931,609	56,745	△874,864

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業及びスポーツ関連事業及び店舗設備の維持管理等を含んでおります。

2 セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

蔦屋書店セグメントにおいて、収益性が低下した店舗資産に係る減損損失を計上しております。

なお、当該損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において39,918千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	蔦屋書店事業				
売上高					
外部顧客への売上高	23,423,558	481,834	23,905,393	—	23,905,393
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	11,648	11,648	△11,648	—
計	23,423,558	493,483	23,917,041	△11,648	23,905,393
セグメント利益又は損失(△)	191,384	△28,064	163,319	63,760	227,080

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業及びスポーツ関連事業及び訪問看護事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

蔦屋書店事業セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において145,281千円であります。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

商品別販売状況

区 分		前第3四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年7月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)		前年同期比 (%)
		売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	構成比 (%)	
蔦屋書店事業	書籍	12,267,110	50.7	12,191,187	51.0	99.4
	特撰雑貨・文具	3,366,058	13.9	3,626,794	15.1	107.7
	レンタル	3,185,699	13.2	2,922,926	12.2	91.8
	販売用CD	1,200,708	5.0	1,098,882	4.6	91.5
	ゲーム・リサイクル	1,160,745	4.9	1,068,297	4.5	92.0
	販売用DVD	731,449	3.0	570,125	2.4	77.9
	賃貸不動産収入	272,876	1.1	426,128	1.8	156.2
	その他	1,383,141	5.8	1,519,216	6.3	109.8
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
	計	23,567,788	97.6	23,423,558	97.9	99.4
その他	外部顧客に対する売上高	575,991	2.4	481,834	2.0	83.7
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	8,869	0.0	11,648	0.0	131.3
	計	584,861	2.4	493,483	2.1	84.4
合計		24,152,649	100.0	23,917,041	100.0	99.0

(注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2 セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

3 蔦屋書店事業の「その他」は、図書カード等で構成されています。

4 前連結会計年度まで、蔦屋書店事業の「その他」に含めて計上しておりました賃貸不動産収入の計上については、当連結会計年度より「賃貸不動産収入」として計上することといたしました。なお、これに合わせて前連結会計年度の売上高を組み替えております